学生の被服製作における布の色選択とトレンドカラー

藤田　恵子

スカート製作の授業履修生にアンケートでトレンドカラー，製作したスカートの色の満足度などの調査をした。また，若年向け婦人服販売店の責任者に今秋冬スカートの売れ筋色についてインタビューをした。さらに，若年女性向け雑誌４誌の 2006 年 10 月号から４か月間に掲載されたスカートのトレンドカラーを割り出した。嗜好色とトレンドカラーと共通して学生から回答された黒が全体の 65.7％に達した。黒で製作したのは 41.4％，無彩色は 55.7％であった。製作スカートの色の満足度について，「気に入っている」と回答した学生が全体の 80％で，自ら選んだ布の色の満足度が高い傾向にある。

若年向け婦人服販売店では，売れ筋色がグレーと回答した販売員が多く，学生もトレンドカラーがグレーであると 25.4％が回答している。雑誌でも黒を中心に無彩色のスカートが無地スカート全体の 55％を超えており，衣料品店の展示や雑誌もトレンドカラーの情報源になっていると言える。

キーワード：トレンドカラー，嗜好色，満足度，無彩色，トーン

１．緒　言

日常生活で目にするファッションの色の傾向について，特に若年女性はトレンドカラーとしての情報を雑誌やマスコミを通じて敏感に感じ取り[1)～3)]，自身の嗜好色と融合させているのではないかと考えられる。そうした嗜好色は，被服製作の授業における学生の布の色選択を左右し，彼らの製作意欲や作品への満足度にも少なからず影響すると考えられる。

筆者が担当するスカート製作実習では，初めて被服製作をする履修生も相当数いることから，布の種類については裏無しの綿を勧め，デザインについては５種類のサンプルを用意し，まずセミタイトスカートの製図をした後，学生が製作したいデザインがあれば許容している。色については，布の色選択が個人の嗜好を最も反映できる部分であり，作品完成時の満足度にも大きく関わっているように思われるので，学生自身の選択に任せている。

「身につける色」と「周辺の色」との間に色相・トーン共に共通性があることや[4)]，近年の若年に黒色嗜好の傾向が認められることについてはいくつかの報告があるが[4) 5)]，衣服におけるトレンドカラーと嗜好色との関連や布の色選択への影響，あるいは被服製作における製作意欲や満足度との関連に着目した研究は見当たらない。

本研究では，学生は衣料品店で展示され販売されている衣服や，雑誌に掲載されている衣服の色などからトレンドカラーを感じ取り，それが学生自身の嗜好色に影響しているのではないかと考えた。そして，嗜好色やトレンドカラーを採用した被服製作は，完成した作品に対する満足度を高めるのではないかという仮説をたて，今回は以下のような点の検証を試みた。

① 学生の衣服の嗜好色が周りのトレンドカラーにどのように影響を受けているか。

② 被服製作において，学生たちの布の色選択に影響する要因は何か。

短期大学生活科学科

③　被服製作において，学生の嗜好色やトレンドカラーによる布の色選択が作品の満足度にどのように影響するか。

2．方　法

筆者が担当しているスカート製作の授業を受講した履修生を対象に，嗜好色，トレンドカラー，製作したスカートの色に対する満足度，などについてアンケート調査を行った。

また，若年向け婦人服の販売店の責任者に，スカートの売れ筋の色についてインタビューをすると共に，若年女性向けの雑誌４誌の 2006 年 10 月号から翌年１月号までの４か月間に掲載されたスカートの色の傾向を捉えて，若年女性の衣服のトレンドカラーを割り出した。

⑴　アンケート調査

調査対象は，「ファッション造形」の１年生の授業で，スカートの製作をした 18 歳から 25 歳までの女子学生 70 名である。平均年齢は 19 歳である。調査時期は，2007 年１月の授業最終日である。

設問内容は，履修する前の被服製作経験，製作したことのある作品名，履修決定理由，スカート着用頻度，ファッションの好き嫌い，身につけるものの嗜好色，身につけるもので嫌いな色，2006 年秋冬物下衣のトレンドカラー，秋冬用スカートの嗜好色，春夏用スカートの嗜好色などである。さらに製作したスカートについて，デザイン決定の理由，満足度，素材，模様，色の決定者，サンプルスカートの色の影響，色決定の理由，色の満足度，製作スカートのイメージなどについて回答を求めた。

なお，アンケート調査において，学生が感じ取っているトレンドカラーや嗜好色の判定のために，次のようなカラーチャートを作成し，使用した。

PCCS（日本色彩研究所による日本色研配色体系）の色相から有彩色 70 色，無彩色５色の計 75 色を１色たて 2.3 ㎝よこ 3.5 ㎝のサイズにし，N 7.0 の台紙，よこ 41.0 ㎝たて 29.0 ㎝に貼り，番号をつけてカラーチャートにした。75 色は，2：R（red），6：yO（yellowish orange），8：Y（yellow），10：YG（yellow green），12：G（green），14:BG（blue green），18:B（blue），20：V（violet），22：P（purple），24：RP（red purple）の 10 色相，トーンは p（pale），ltg（light grayish），d（dull），lt（light），v（vivid），dp（deep），dk（dark）からなっており，無彩色　は W（White），Gy（Gray-8.5, Gray-5.5, Gray-3.5），Bk（Black）の５色である。なお，光源は補助標準イルミナント C として調査を行った。

また，最終授業で完成したスカートの提出と共に，使用した残布たて 10 ㎝よこ 10 ㎝の提出を求め，PCCS の 199 色を用いて筆者がそれらの色判定をした。

⑵　レンドカラー調査

アンケート調査時に学生の衣服の嗜好色に影響を与えていたと考えられるトレンドカラーについては，実際の若年向け婦人服販売店へのインタビュー調査と，若年女性向け雑誌の傾向調査を行った。

①　店舗調査

2007 年１月新宿駅周辺および都内府中駅周辺において，若年女性対象のスカートを販売している 10 店舗で 2006 年秋冬スカートの売れ筋の色について，責任者にインタビューした。また，許可が得られた場合販売しているスカートの展示写真の撮影をした。

②　雑誌の傾向分析

若年女性向け雑誌のうち比較的発行部数の多い『CanCam』『ViVi』『non・no』『JJ』　の　４誌を選び[6],2006 年 10 ～ 12 月号，2007 年１月号に掲載されたスカートの色について，PCCS の 199 色に最も近似した色を判定し，集計した。『CanCam』『JJ』『ViVi』は月刊誌，『non・no』は月に２回発行されている。これらの雑誌は一般の若年女性が目にする頻度が高く，ファッションのトレンドカラーに関する情報源になり得ると考えた。雑誌に掲載された写真は，印刷の色が必ずしも実物と一致するものではなく，実物と印刷とには色差があるが，読者がトレンドカラーの情報として受けとめるであろうと判断した。

3．結果と考察

⑴　アンケート結果

1）被服製作経験

「ファッション造形」の授業を受講するまで，被服製作の経験があると回答した学生は，65.7％，全くなしが34.3％である。小学校から高等学校までの間に，学校でも家庭でも全く被服製作経験のない学生が34.3％もおり，手縫いやミシン操作の経験の消失がかなり広がっていることがうかがえた。

また，履修を決めた理由として，資格取得のためが47.1％，資格取得に関係なく自分の衣服を作りたかったと回答した学生が41.4％おり，学生たちの衣服製作意欲は，資格取得のためという動機の枠を越えて潜在していることがわかる。また，手縫いの技能と被服製作に関する知識に相関があるという報告[7]，被服製作について「興味や意欲はあるが不安である」という訴えが少なくないとの指摘[8),9)]などがあることからも，本学での実習経験は，学生の被服製作の経験や知識の欠落をカバーし，被服製作に対する潜在的欲求に応えるものであると言える。

2）身に付けるものの嗜好色と嫌いな色

身に付けるものの嗜好色と嫌いな色について，複数回答したものを集計したのが図１である。なお,以下PCCSの色相とトーンを用いて説明する。Bk，Gy，Wを嗜好色として圧倒的に多くの学生が回答している。無彩色と比して数値は低いがｖ２やlt24も女子学生の支持があるのが分かる。

一方，嫌いな色としては，突出している色はなく，全体的に嫌いな色相は限定されていないと言える。また，同一の色相とトーンでも嗜好色でもあり，同時に嫌いな色でもあるところから，色についての好みが多様であることがわかる。無彩色を嫌いな色としてあげた者がいないことから，人気の程がうかがえる。

3）春夏スカートと秋冬スカートの嗜好色比較

春夏スカートの嗜好色と秋冬スカートの嗜好色を比較したものが図２である。秋冬用にはBkを中心とした無彩色とdkトーンが，圧倒的に多く

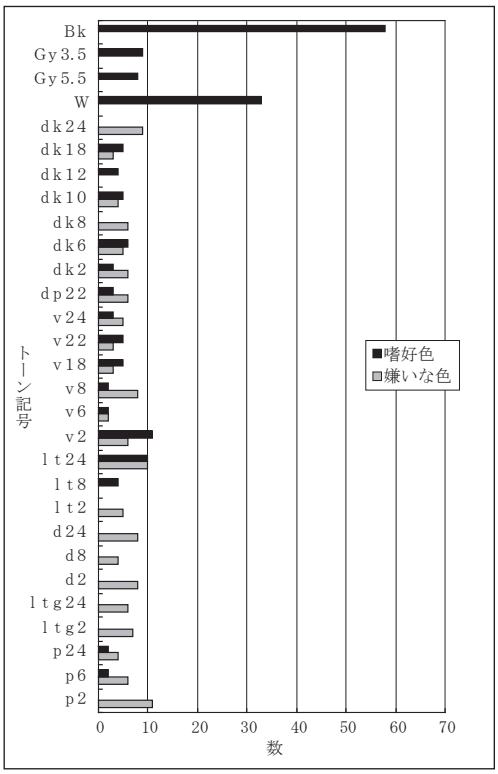

図１　身に付けるものの嗜好色と嫌いな色

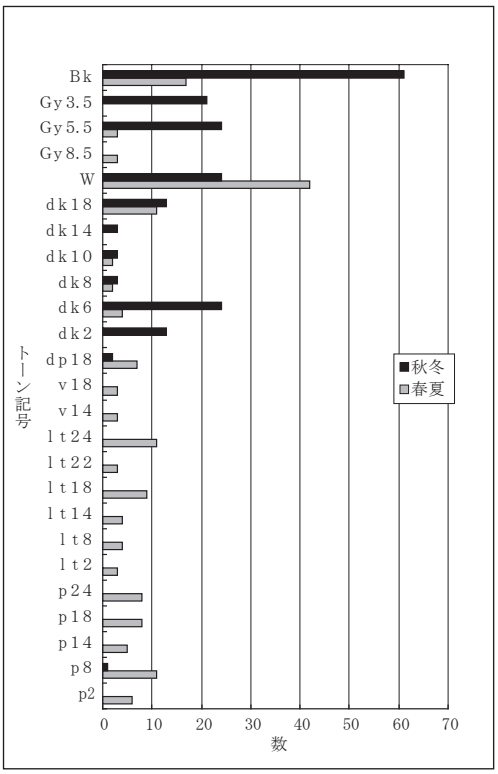

図２　春夏スカートと秋冬スカートの嗜好色比較

選ばれている。色相では，無彩色に次いで，６yO，２R，18B が多くなっている。

春夏用にはＷが最も多いのは春夏ということによる選択であると思われる。しかし，２番目に多い Bk については，トレンドカラーが学生たちの意識に反映しているように思われる。春夏用にはｖ，lt，ｐのトーンが選ばれており p8 を除いては秋冬にはみられないことから，季節による嗜好色の差がはっきりとみられる。なお，配色嗜好についても季節によって異なるとの指摘がある[10]。

4）製作したスカートの色

製作したスカートの色をまとめたものが図３である。柄物の模様は最も面積の多い色を採用した。ここでも Bk が圧倒的に多く，全体の 41.4％を占めている。また，Bk/Gy/W はこれらの色からなる模様を示している。これらの模様も含めると 55.7％が無彩色の色を選択しており，前述の身につけるものの嗜好色と共通して無彩色が上位を占めていることがわかる。無彩色に次いで dk18，ｇ２が採用されている。12 月から１月に完成する予定であったことから，秋冬を意識した色になっていることがうかがえる。スカートの色を決定した理由についての質問に対する複数回答では,「好きな色」40％,「着たい色」31.4％,「あわせやすい」14.3％,「デザインにマッチ」12.9％,「教育実習で着用」4.3％,「模様・素材の魅力」4.3％,「一般的」2.3「流行色」1.4％,「人が選びそうにない」1.4％,「販売員に勧められて」1.4％,「適当」1.4％，になっており，学生たちの布の選択には嗜好色やトレンドカラーだけでなく，他のいろいろな要因が絡んでいると言える。

5）製作スカートのイメージについて

図４は製作したスカートのイメージについて，黒のグループと黒以外の色のグループとで平均値を比較したものである。

黒グループが「硬い」「重々しい」「つまらない」「平凡」「暗い」「濁った」「冷たい」の値が高くなっており，マイナスのイメージ（「女性」「男性」を除き）であるが,「流行」「好き」では黒の方が逆転しており，黒色がもつイメージとしての嗜好色やトレンドカラーが読み取れる。

6）製作スカートの色の満足度

製作したスカートの色の満足度については,「とても気に入っている」42.9％,「やや気に入って

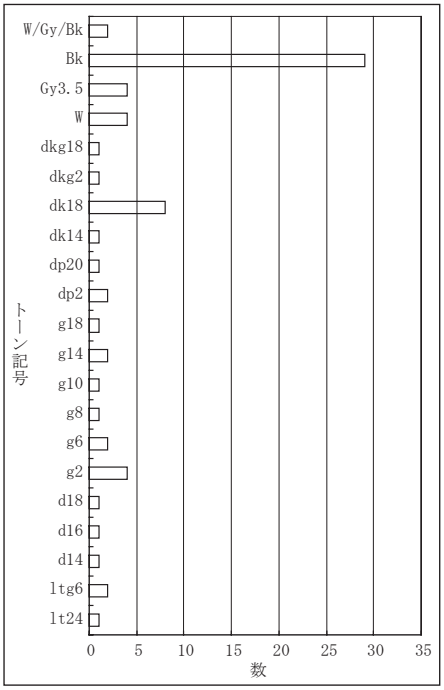

図３　製作したスカートの色

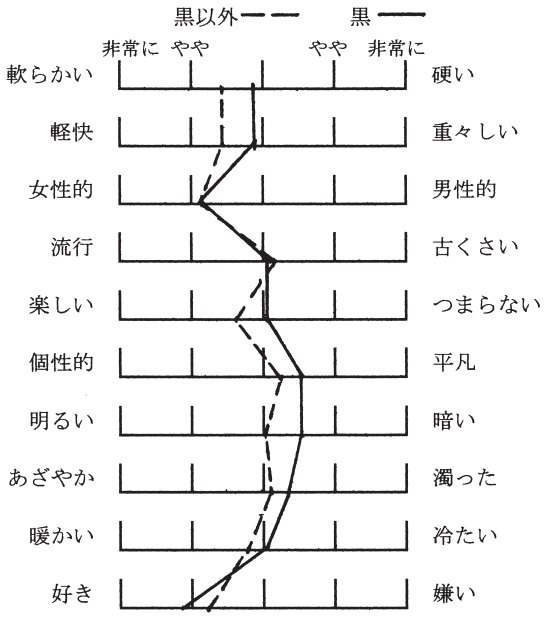

図４　黒と黒以外の色のイメージプロット

いる」37.1％,「どちらともいえない」18.6％,「とても気に入らない」1.4％となっており，80％の学生が満足していることがわかる。これは，後述のデザインの満足度の72.9％を上回っており，デザインより色の方が嗜好を反映できたことにより，満足度が高くなったのではないかと考えられる。製作スカートの満足度と色の満足度との間には，有意な相関関係を認めることができた（相関係数：0.574，p≦0.01）。

製作スカートの色を選択するとき，５種類のサンプルの色に影響されたかについての回答は,「やや影響された」が21.4％,「とても影響された」が，1.4％,「どちらともいえない」が24.3％,「あまり影響されなかった」が25.7％,「全く影響されなかった」が27.1％であった。サンプルはセミタイトスカート，タイトスカート，ティアードスカート，ギャザースカート，フレアスカートでBkの無地とBkを基調とした柄あわせを必要としない柄物を採用した。「影響された」が合わせて22.8%になり，値としてはそれ程大きくはないが，とても影響された学生がおり，１人でも製作意欲を促された学生がいたとしたら，サンプルは重要であり，色については慎重に選択し，より学生が魅力的に感じ製作してみたいと思ってくれるように提示しなければならないと考える。

7）製作したスカートのデザインと満足度

製作したスカートのデザインの多い順にセミタイトスカート75.7％，フレアスカート10％，ギャザースカート4.3％，タックスカート2.9％，タイトスカート1.4％，ティアードスカート1.4％，その他4.3％である。セミタイトスカートが多いのはパターン製図を授業で説明したことと，教育実習で着用することなどによる影響と考えられる。

「ふだん自宅や学校でスカートをはきますか」の回答では,「時々はく」が57.2％,「ほとんどはかない」が31.4％,「スカートのみ」は7.1％である。ふだんジーンズなどのパンツ類のみをはいている学生31.4%にとっては，実習のスカートがスカート着用のきっかけになる可能性も含んでおり，スカートの構成，製作手順，各部位の製作テクニック，仕上げ法などを学ぶと同時に，自分のサイズや体型を知り，逆にこれまで馴染んだ既製服を見直すきっかけになることを期待している。

製作したスカートの満足度については,「とても気に入っている」が42.9％,「やや気に入っている」が30％,「どちらともいえない」が20％,「あまり気に入っていない」が5.7％,「とても気に入らない」が1.4％である。「とても気に入っている」と「やや気に入っている」を合わせた72.9％が，製作したスカートのデザインに対して満足している。34.3%が被服製作の経験がなかったことから，学生自身のサイズに仕上がったことと，着用できるものを製作できた満足感が表れているように思われる。中には教育実習で着用する予定であることを話してくれた学生もかなりおり，自作であることが自信にも繋がるのではないかと期待している。

8）学生が認識する秋冬物下衣のトレンドカラー

2006年秋冬物下衣のトレンドカラーについての質問に対する複数回答を集計したものが図５である。Bkに続いてW，Gy5.5，Gy3.5が圧倒的に多い。Gy8.5も含めると全体の70％を無彩色が占めている。その内訳は，Bkが27.4％，Gyが25.4％，Wが17.3％になっており，Bkに次いでGyをトレンドカラーとしているのがわか

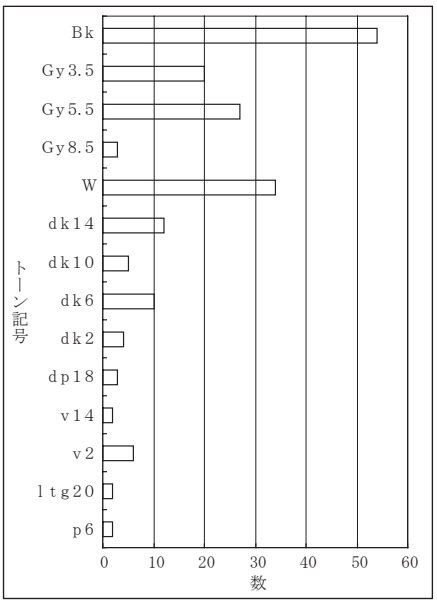

図５　学生が認識する秋冬下衣のトレンドカラー

表1　2006年秋冬スカートの色の傾向　ー店舗責任者へのインタビューー

取材番号	地　域	店舗の種類	対　　象	今秋冬スカートの色の特徴
1	新　宿	専門店	ヤング	グレー中心
2	新　宿	専門店	ヤング	チャコールグレーのみ
3	新　宿	専門店	ヤング･アダルト	無彩色中心に、ビビットな赤系や明るい色彩の模様もあり
4	新　宿	専門店	なし	黒がテーマ（世代を超えて着用できるミニからロング丈まで）
5	新　宿	専門店	ヤング	無彩色少ない。色物・柄物も多く、明るい色彩多い
6	新　宿	デパート内	ヤング	グレー中心
7	新　宿	デパート内	ヤング	ベーシックカラーのみ
8	新　宿	デパート内	ヤング	無彩色中心（太いリボン・ギャザー・同系色の柄物などをアクセントにし、デザイン多彩）
9	新　宿	デパート内	ヤング	タータンチェック中心、くすんだ赤が人気
10	府　中	専門店	ティーン･ヤング	無彩色中心（地味な色彩に同色の太いリボン･テープでデザインに変化をつけた超ミニ丈多く、可愛いイメージ）

る。dk トーンの幾つかの色相に加えてｖ2 をあげている学生がいることに注目したい。学生はスカート提出と共にレポートの課題としてスカート売り場を見に行くことを課せられていることから，ある程度店頭に出回っている色について注意して見ているはずであり，その結果が反映しているものと考えられる。

嗜好色とトレンドカラーとの共通の色をみると，共通して Bk を選んだ割合が 65.7％と高くなっており，Bk を意識している学生が多いことがわかる。Bk でスカートを製作した学生 29 人中 28 人が嗜好色あるいはトレンドカラーに Bk をあげている。しかし，製作スカートの色を Bk にした学生のみを取り上げて満足度をみると,「とても気に入っている」52％，「やや気に入っている」24％,「どちらともいえない」24％である。「とても気に入っている」と「やや気に入っている」を合わせると 76％になり，嗜好色やトレンドカラーと感じた Bk で製作したことについて，おおむね満足していると考えてよい。

また，無地のＷ，Gy に 2 色構成の柄物の Bk/W，Bk/Gy を加えた 39 人について満足度をみると，「とても気に入っている」51％，「やや気に入っている」26％，「どちらともいえない」23％で，「とても気に入っている」と「やや気に入っている」を合わせると 77％になり，Bk のみのときより満足度が１％上がるが，Bk のみとの差はほとんどない。

⑵　若年向け婦人服販売の店舗調査および若年女性向け雑誌に見るトレンドカラー

1）インタビュー調査から

インタビューの回答から特徴をまとめると表１のようになる。結果はそれぞれの店舗によりコンセプトが異なり，Bk を揃えた No.4 の店舗では，ミニ丈からロング丈まで異なる丈を提供しており，対象年齢を特定しないところもみられた。中には No.9 の店舗のようにタータンチェックをコンセプトにしているところもあり，くすんだ赤が今シーズンの特徴としている。また，外衣のコート類が無彩色やベーシックカラーが多いことから，明るい色彩のスカートを揃えているところもあった。

全体として無彩色のスカートを扱う店が多い傾向がみられ，各店では今シーズンのトレンドカラーとして Gy や Bk などの無彩色を揃えつつ，店のコンセプトも前面に出した展開をしていると言える。

無彩色は落ち着いて地味なイメージであるため，同色の太いリボンを付けたりギャザーを入れたり，また切り替えに太めのテープを付けてデザインに変化を持たせているのが今年の特徴のようである。

若年向け婦人服販売の店舗調査の Gy が売れ筋という傾向は，2005 年に発表されインターカラーによる「灰みの色調」や「高明度･中明度の無彩色」の増加傾向の予測と合致していると言えよう[1)]。

また，学生のアンケートによっても，上述したように，トレンドカラーを Gy とした学生が 25.4％もいたことは店頭での学生の調査が反映

したものと推測できる。

2）若年女性向け雑誌の傾向

ltg18，ltg20，g18，g20，p18，p20 に近似と判定した中には，実物は Gy ではないかと思われるものも含まれていたが，今回は Gray とは判定しなかった。同一のスカートでも写真により異なった色相に仕上がっていることがあり，読者が目にする雑誌による色彩の影響を考えると，今少し詳細な調査が必要だと考えている。

3）４誌掲載の無地スカートの色の傾向

４種類の雑誌各４か月分のスカート掲載を集計した結果,『CanCam』は無地 786 着, 柄物 103 着,『ViVi』は無地 285 着，柄物 113 着,『non・no』は無地 309 着，柄物 61 着,『JJ』は無地 699 着，柄物 125 着であった。４誌とも，Bk が掲載頻度が最も多く,『JJ』と『CanCam』では W が２番目に多く掲載されていた。『non・no』と『ViVi』では,「その他」を除けば Bk に次いでデニム地の blue を含めた dk18 が多くなっていた。これは,『JJ』と『CanCam』が少しおしゃれっぽく，少し大人っぽい雰囲気があるのに対し,『non・no』と『ViVi』は，ジーンズによるスカートが多い傾向がみられ，カジュアルな服を多く掲載していることによるものと思われる。

無地スカートの中での無彩色を割合でみたものが図６である。2006 年秋冬のトレンドカラーとして４誌が提案しているのが，Bk を中心とした無彩色であることが分かる。中でも Bk は全体の 35％を越え,『JJ』では 48％に及んでいることから，どの雑誌も読者に Bk がトレンドカラーであるという印象を与えていると思われる。W についても秋冬物であるにもかかわらず，２誌で 25％を越えており読者にはトレンドカラーと感じられるのではないかと思われる。インターカラーによるトレンドカラー[1)～3)]，店舗の調査，学生のアンケートなどによるトレンドカラーとして注目された Gy については，今回の雑誌上で特筆するに値する結果は得られならなかった。これは前述したように，印刷の色と実物の色には差があり，特に今回は，ltg18，ltg20，g18，g20，p18，p20 と Gy の色差を感じ，近似しているものの僅かに異なることから，Gy と判定しなかったことにもより，Gy の数値はそれほど大きくなかった。

４．まとめ

スカート製作を履修した学生 70 名にアンケート調査をした結果，嗜好色とトレンドカラーと共通して多く回答されたのが黒で全体の 65.7％に達している。

1980 年初頭にデザイナーの川久保玲や山本耀司がパリのファッション界に衝撃を投げかけたと言われている黒が[11)～13)]，1990 年代に入ると一

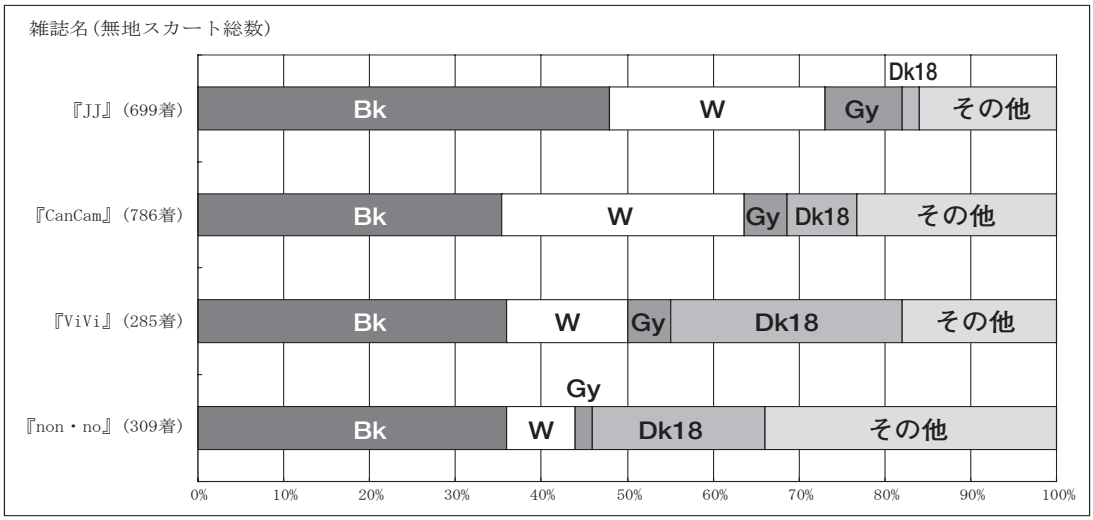

図６　雑誌掲載秋冬無地スカートの色の割合　ー '06 年 10 月号～ '07 年１月号ー

部の若年女性に支持されるようになり，調査結果からも黒のトレンドカラーとして一般の学生に浸透していることがわかった。

実際，黒でスカートを製作したのは全体の41.4％で，黒，白，グレーの無彩色を選択して製作したのは55.7％であった。

学生たちが布の色を選択した理由について,「好きな色」,「着たい色」,「あわせやすい」,「デザインにマッチ」,「教育実習で着用」,「模様・素材の魅力」,「流行色」,「一般的」など，嗜好色やトレンドカラーだけではなく，他にいろいろな要因が絡んでいることがわかった。

製作したスカートの色についての満足度について,「とても気に入っている」「やや気に入っている」とした学生が全体の80％におよんでおり，無彩色で製作した学生のみの満足度は77％であった。いずれも製作スカートについての満足度72.9％を超えていることから，自ら選んだ作品の色は満足度が高い傾向にあると言える。

若年向け婦人服販売店でのインタビューによると，スカートの今年の売れ筋色としてはグレーをあげた店舗責任者が多かった。学生もトレンドカラーがグレーであると25.4％が回答しており，黒27.4％に次いで高くなっており，一般学生と店舗責任者のトレンドカラーについての一致がみられる。

若年女性向け雑誌4誌『CanCam』『ViVi』『non・no』『JJ』による2006年10月号～2007年1月号までに掲載されたスカートの色調査の結果，無地では黒が圧倒的に多く35％を越えており，『JJ』では48％に及んでいた。白，グレーを含めると無彩色の割合が3誌で無地のスカート全体の55％を超えており，『JJ』では4か月分総数の82％に達していた。これらは読者に黒を中心とした無彩色がトレンドカラーであることを印象付けていると考えることができ，雑誌もトレンドカラーの情報源になっていると言える。

今後，授業のサンプルの色については，若年女性の嗜好色，身に付けたい色，トレンドカラーなどを検討し，製作意欲を促すように提示していきたいと考えている。

本研究のアンケート調査について，本学の助手井澤尚子氏にご協力をいただいたことに感謝の意を表します。

引用文献

1）『LADIES' WEAR 2006 AUTUMN-WINTER』（日本流行色協会，2005年），2-7頁
2）丸山れいこ，出井文太，川村雅徳「マーケットカラー動向」『流行色』（日本流行色協会，2005年）542，12-13頁
3）出井文太「ＪＡＦＣＡアップデイトカラー」『流行色』（日本流行色協会，2006年）545，42-45頁
4）三浦久美子，齋藤美穂「＜身につける色＞と＜周辺の色＞の選択傾向の比較」『日本色彩学会誌』29巻3号（2005年），198-209頁
5）今井弥生，高野美栄，井澤尚子「色彩嗜好とパーソナルカラー－衣服色彩との関係－」『東京家政学院大学紀要』37号（1997年），19-25頁
6）日本雑誌協会ホームページ http://www.j-magazine.or.jp/data_001/woman_2html2007/2/21
7）布施谷節子，高部啓子「家政系女子短大生における手縫いの技能の実態」『日本家庭科教育学会誌』43巻4号(2001年)，273-278頁
8）高部啓子，布施谷節子，新留理江子，高部和子「家政系女子大生の被服製作に対する意識と基礎知識（第1報）－製作体験と意識との関連－『日本家庭科教育学会誌』37巻3号(1994年)，39-46頁
9）高部啓子，布施谷節子，新留理江子，高部和子「家政系女子大生の被服製作に対する意識と基礎知識（第2報）－製作体験と意識との関連－『日本家庭科教育学会誌』37巻3号(1994年)，47-53頁
10）今井弥生，井澤尚子「配色嗜好の研究」『東京家政学院大学紀要』36号（1996年），55-62頁
11）千村典生『時代の気分を読む』(グリーンアロー出版社，1996年)，198-224頁
12）日置久子『女性の服飾文化史』(西村書店，2006年)，334-344頁
13）深井晃子『20世紀モードの軌跡』(文化出版局，1994年)，206-211頁

(2007.3.29受付　2007.5.28受理)